## 令和3年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 8	公益目的事業	16
主査名	林 克彦 流通経済大学教授		
研究テーマ	消費者行動の変化が小型貨物輸送に及ぼす影響に関する研究		

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大により、消費者は外出を自粛しネット通販の利用を拡大するなど、消費行動が大きく変化している。総務省家計消費状況調査によれば、ネット通販利用世帯の割合は緊急事態宣言が発出された 2020 年 4 月以降急増し 5 月には 50%を超えた。全年齢層で利用率が高まり、高齢者世帯(65歳以上)でも利用割合が 30%を超えるほど広まっている。日本通信販売協会によれば、これまで実店舗で購入していた食料品や家庭用品についても通信販売額が急増しており(2020 年 6 月対前年同月比)、消費者の買い物行動が実店舗からネット通販にシフトしている。

ネット通販商品の配送需要が急増し、宅配便の取扱量はヤマト運輸が 2020 年通年で対前年比 18.6%増となるなど急増している。宅配便事業者は、ネット通販商品に対応した投函方式や置き 配等の新サービス導入により、取扱量を拡大している。しかしネット通販の配送需要は宅配便 の取扱能力を大きく上回っており、ネット通販事業者は自ら軽トラック事業者を組織化するなど独自に物流体制を強化している。ネット通販事業者のなかでは、実店舗事業者との連携を強化し、実店舗から食品等を配送する体制を整備する動きも広がっている。

本研究では、諸統計や文献を収集・分析するとともに、インタビュー調査やウェブアンケート調査により、消費者行動の変化とそれがネット通販や宅配便等に及ぼす影響を検討する。